

低コストでできる耐震化

木造住宅の耐震改修は、新築住宅と同じ工法で補強することが多いため、撤去箇所や施工面積が増えて、高額になりやすい傾向があります。

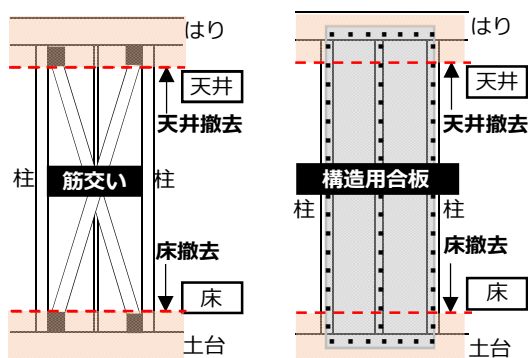
しかし、補強方法は様々に進化しており、補強方法を工夫することで通常よりも費用を抑えて施工できる場合があります。

低コスト工法

安価で効果的な耐震補強工法として、既存の構造を壊さずに「耐震壁」を取り付ける工法や、外壁に「ブレース」を筋交いのように直接取り付ける工法があり、どちらの工法も、住みながら工事ができ、さらに工期も短くてすむため、コストダウンを図ることができます。

一般的な工法

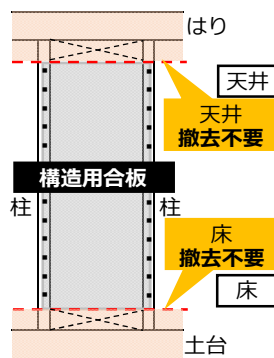
壁全体を補強する場合



- 筋交いや構造用合板を、土台・柱・はりに固定して補強
→壁以外に、天井や床の撤去が必要

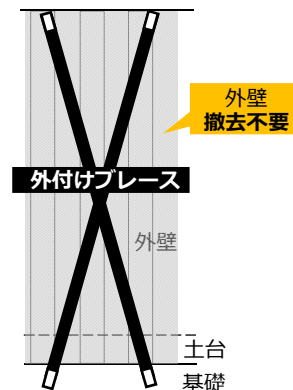
安価な工法(一例)

壁一部の補強



- 床と天井間を、構造用合板で補強
→天井や床の撤去が不要

外から壁を補強する場合



- 外部からブレースで補強
→外壁の撤去が不要

愛知建築地震災害軽減システム研究協議会では、木造住宅の耐震改修を推進するため、安価にできる耐震改修工法（以下、「低コスト工法」という。）の開発や新工法の評価を行っており、それら開発・評価された低コスト工法を数多く紹介しています。



低コスト工法のメリット

- 工事費の削減・・・撤去・復旧に係る工事が少ない分、工事費を削減できます。
- 工事の短縮・・・撤去・復旧に係る工事が少ない分、工期の短縮が図れます。
- 住みながら工事・・・大がかりな解体がなく、住みながらの工事が比較的容易にできます。